

熊本地震からの復旧・復興を 加速し、強力に推進します

平成29年4月24日(月) 開室式



国土技術政策総合研究所

熊本地震復旧対策研究室 研究室長 星隈 順一

国総研におけるこれまでの熊本地震への対応

○ 熊本地震において、発生直後から専門家を現地に派遣し、被害調査・復旧の技術的支援を実施



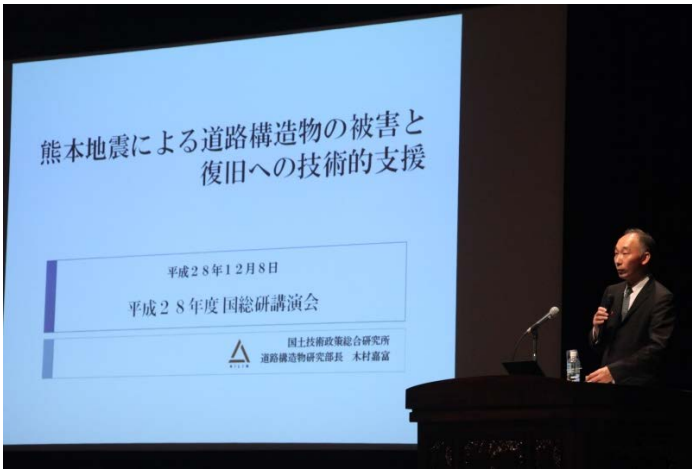
国総研災害対策本部会議(つくば庁舎)



緊急点検結果を自治体に説明



現場での被災状況調査



国総研講演会における
復旧への技術支援の報告

調査報告書の公表

ISSN 1346-7328
国総研資料 第967号
ISSN 0386-5878
土研資料 第4359号
平成29年3月

国土技術政策総合研究所資料
Technical Note of National Institute for Land and Infrastructure Management, No.967

土木研究所資料
Technical Note of Public Works Research Institute, No.4359

平成28年(2016年)熊本地震土木施設被害調査報告
Report on Damage to Infrastructures by The 2016 Kumamoto Earthquake

国土交通省 国土技術政策総合研究所
National Institute for Land and Infrastructure Management
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan

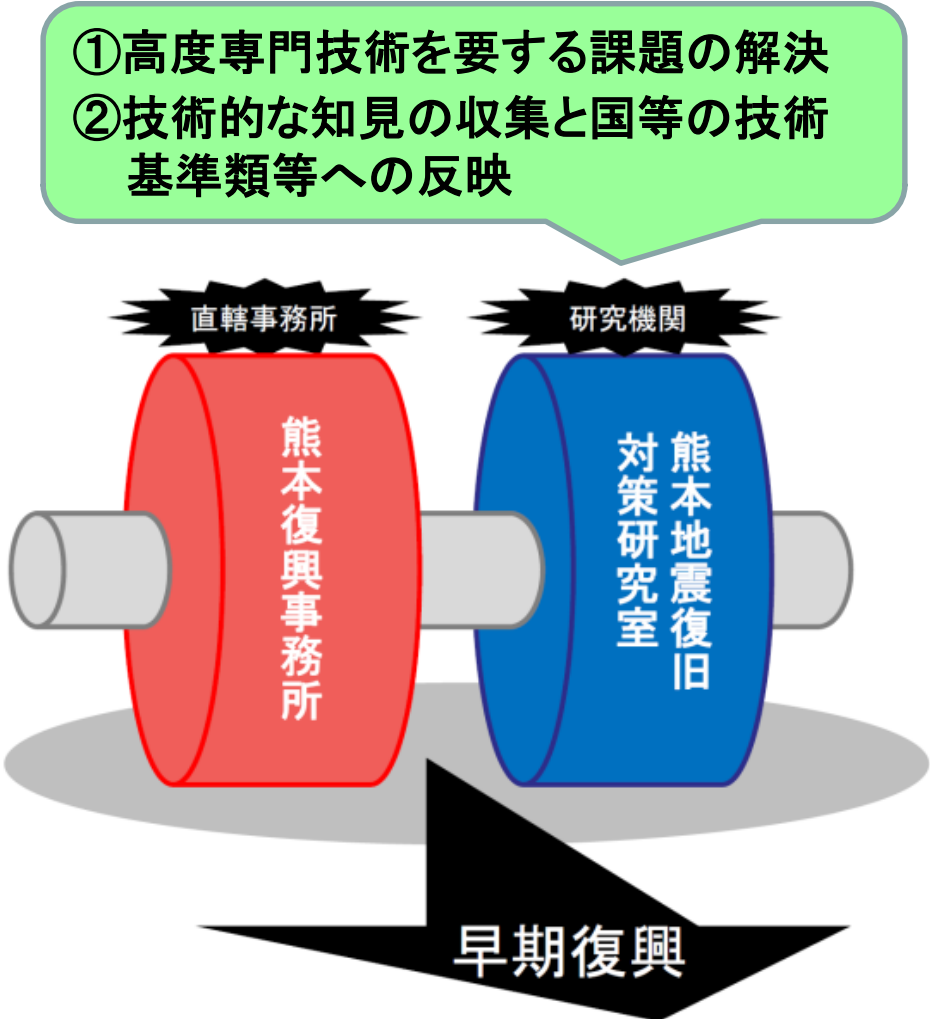
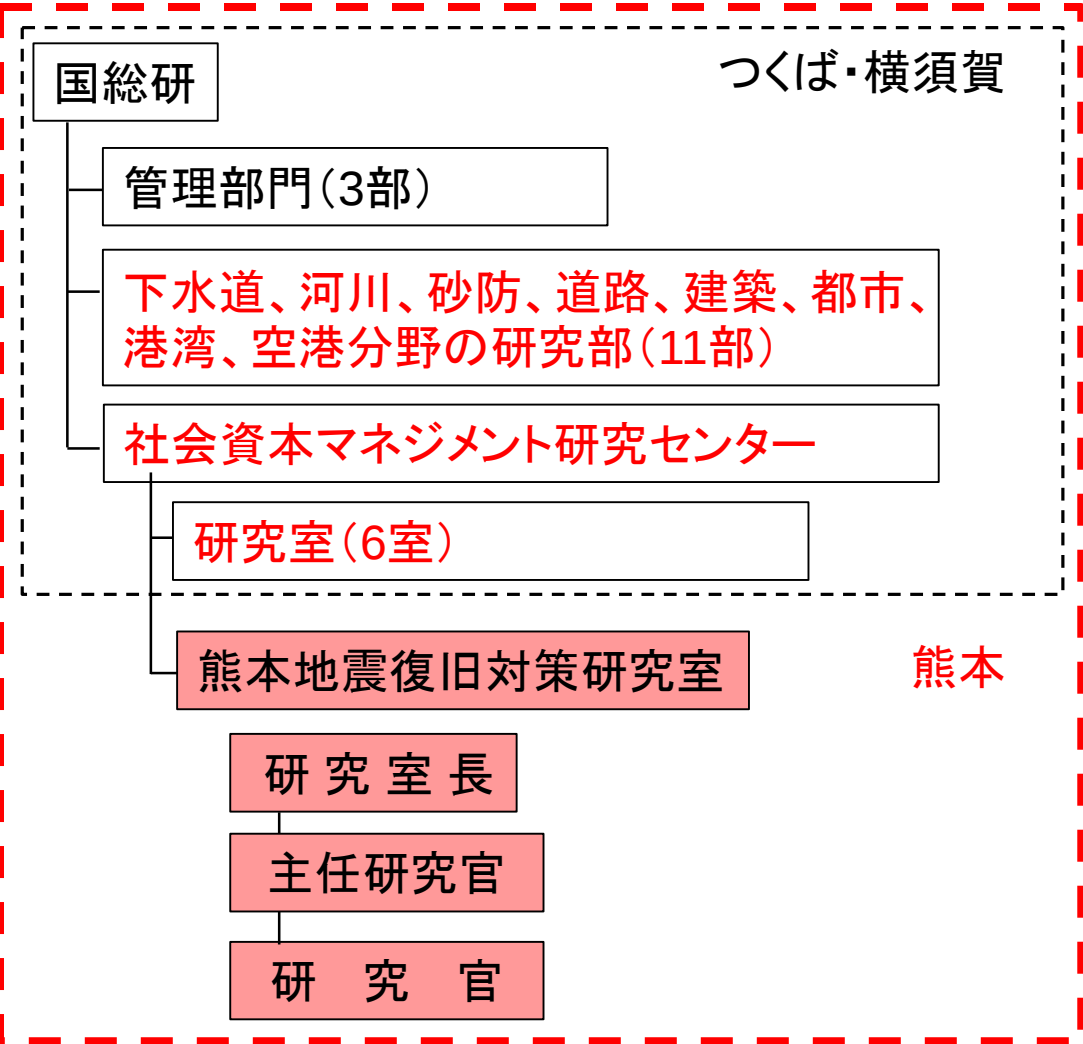
国立研究開発法人 土木研究所
National Research and Development Agency, Public Works Research Institute

<目次>

- | | |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. 地震発生後の調査
対応と復興・復旧に
向けた技術支援 | 5. 河川管理施設 |
| 2. 地震と地震動 | 6. ダム |
| 3. 地形・地質 | 7. 土砂災害 |
| 4. 下水道施設 | 8. 道路施設 |
| | 9. 公園施設 |

熊本地震復旧対策研究室を設置

- 熊本地震の復旧・復興事業をより加速化させるため、国総研で初めて災害復旧現場に研究室を設置（平成29年4月）
- 国総研の各研究部とも連携し、熊本復興事務所と車の両輪となって早期復興に向けた活動を実施



任務①：高度専門技術を要する課題の解決

- 復旧事業における高度な専門的技術を要する課題に対して、現地にて速やかに検討を行い、技術的な側面から、早期の復興を全面的に支援

阿蘇長陽大橋

○橋桁

- ・ひびわれ状況の診断
- ・繊維シートによる補修

○橋脚

- ・ひびわれ状況の診断
- ・コンクリート充填による中空断面橋脚の補修

○橋台と取り付け部

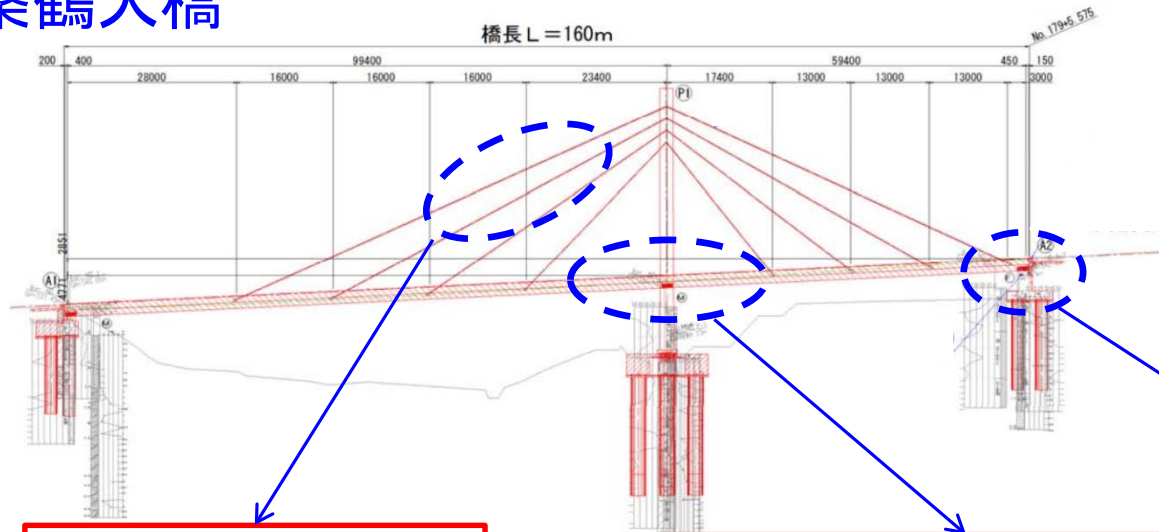
- ・地質調査とその評価
- ・橋台アプローチ部を5連ラーメン橋へ

平成29年4月時点

任務①: 高度専門技術を要する課題の解決

- 復旧事業における高度な専門的技術を要する課題に対して、現地にて速やかに検討を行い、技術的な側面から、早期の復興を全面的に支援

桑鶴大橋



○ケーブルのたわみ

○支点の損傷と橋桁のずれ

○支点の損傷と橋桁の浮き上がり



任務②：技術的な知見の収集と国等の技術基準類等への反映

- 今回の地震では、橋を支えている地盤の動きに伴い、復旧に長期間を要するような被害が発生
- 被災した橋の現地調査や復旧工事の情報等を踏まえ、技術的知見を収集し、広く発信していくとともに、橋としての機能が回復しやすい耐震構造等の先進的な研究を推進

俵山大橋

橋桁を支える
支点の損傷



橋の主桁に
生じた変形



橋桁を支える
支点の損傷



沈下した
橋台

